

自動走行車による解決可能な行政課題について

- 実証エリアにおいて、自動走行車を活用することにより解決できる行政課題についてご記入ください。
- 交通不便地対策、高齢者対策など複数テーマがある場合は、それぞれご記入ください。

市町村名 豊田市

テーマ ①「高齢者を中心とした交通事故の削減・緩和」

②「高齢者の外出機会創出／運転・健康寿命の延伸」

③「利用者ニーズを満足させる交通手段の確保」

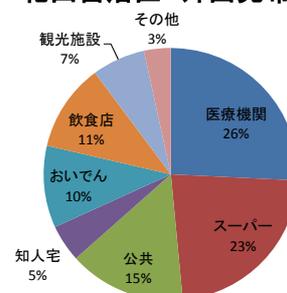
① 高齢者を中心とした交通事故の削減・緩和

- ・下山地区内では、交通事故件数や交通事故死傷者数は前年比 40 件増加している。特に 65 歳以上の高齢者の運転事故が多く、判断能力の低下が事故に繋がっている。
- ・また、地区内の主要な買い物ができる場所である JA あいちの出入口付近に隣接している国道 301 号（JA あいちの東側）がカーブとなっており、走行車が確認しにくい。そのため、頻繁に車同士が衝突しそうになっており、高齢者の判断能力の低下により、事故がいつ起きてもおかしくない状況である。

② 高齢者の外出機会創出／運転・健康寿命の延伸

- ・下山地区では、年々高齢化率が高くなってきており、28.0%（H28.1 現在）となっている。
- ・下山地区内における花山自治区では、高齢者の外出率（週に 1 回以上外出）が低く、22.1%である。（60 歳未満の外出率は 71.4%）
- ・花山自治区では、希望の外出先としては年齢を問わずに 48.47%の人が医療機関、スーパーに行きたいと希望している。
- ・また、外出しない理由として、「運転免許を持っていない」、「自由に使える車がない」、「家族等に頼めない・気を使う」、「目的地の近くまで行くバスがない」、「バス停が遠い」などの意見があり、外出率が低い原因は『容易に移動できない』という理由が多数を占めている。

花山自治区 外出先希望



③ 利用者ニーズを満足させる交通手段の確保

- ・現在、下山地域バスとして地区内をデマンド運行しているが、今後人件費の高騰も予測され、運行経費が増加する。
- ・当該自治区でのデマンドバスの利用は、年間約 1,500 人（下山地区全体では、年間約 10,000 人）に利用されているが、将来の人口減少に伴い、利用者が減少することによる収入の減少が想定される。
- ・収支率が悪化する中で、将来的に全ての利用者のニーズにバスのみで応えていくことが難しくなっていくことが予想される。

自動走行車の実験走行ルートについて（複数ルート提示も可）

1 区間（出発地点→到着地点）

【3】花沢～JAあいち

2 地理条件（バスルートの有無、地域の状況を記入）

おいでんバス路線（下山・豊田線）、名鉄バス路線（大沼線）あり、デマンドバスあり

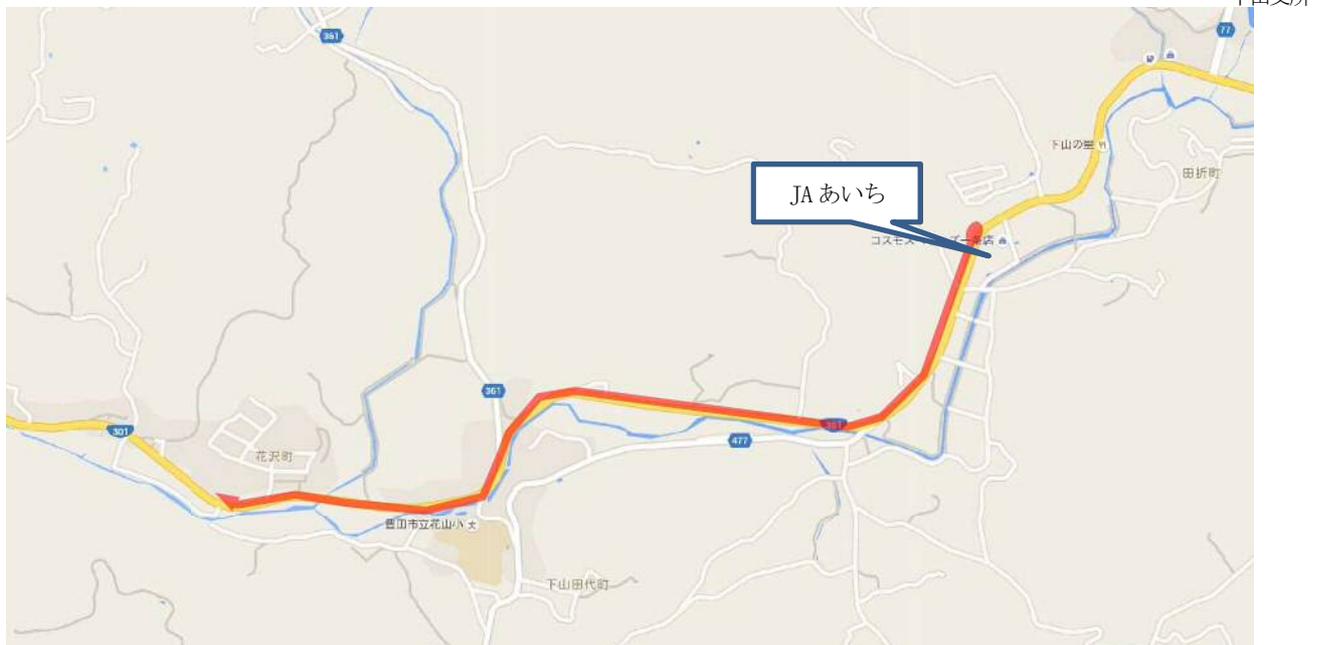
3 道路条件（参考の「2 道路条件」について記入）

- ①走行ルート 約2.9 km
- ②白線が明確に引かれている
- ③片側1車線
- ④歩車分離、人通りは少ない
- ⑤走行ルートに対して横から流入する車が少ない
- ⑥トンネル区間はない

4 その他（参考の「3 その他」について記入）

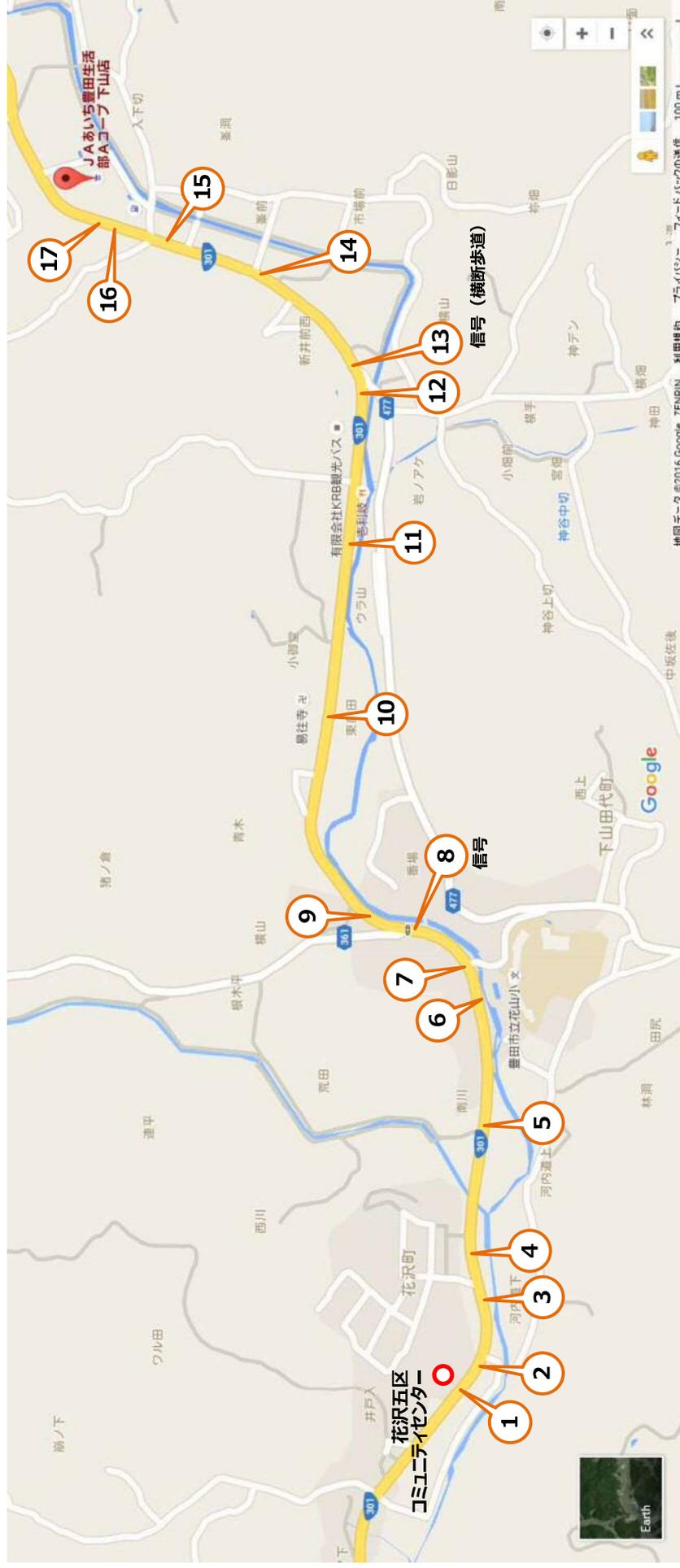
下山支所を待機場所として利用可能

5 走行ルート（地図）



【出発地点】花沢五区コミュニティセンター

【到着地点】JAあいち豊田下山店



①花沢五区コミュニティセンター（左）



②



⑦



⑧ Y字路+信号



⑪



⑫



⑬横断歩道+信号



⑭



15



16 J A あいち

